



祐介の目

No.133

大田祐介 (福山市議会議員)

JFEに送る予定が現在は7万トン程度だ。過去18年間、代替水源として様々な提案を行ってきた。例えば姉妹都市の韓国の浦項市にある下水処理水を高度処理して工業用水への転用施設である。しかし、上下水道

開かずの河口堰

今から44年前、私が小学3年生の時に芦田川河口堰が完成し、河口域の潮の干満が無くなり水質は激変した。当時、母が河原を散歩しながら「人間は愚かよね」とつぶやいたことが忘れられない。

7月29日の新聞によれば、中国地方整備局福山河川国道事務所が河口堰の耐震化を計画している。昨年度に大規模地震に対する安全性の照査に加え最適な補修・補強工事について検討を行い、概略検討結果をまとめていくそうだ。この工事が実施されれば、今後さらに数十年間河口堰を使用することとなる。私は高潮対策や道路橋としての役割は肯定するものの、河口一帯の汽水域を消滅させ、常時河口湖に500万トンの水を滞留させて弾力的放流時にしか海に放流しないことによる瀬戸内海への影響は計り知れないほど大きいと思う。

建設当初は日量17万トン

局は現状がベストであるという姿勢を崩さない。水質悪化も河口堰の責任ではなく、下水道の整備が遅れているためと説明してきた。下水道整備の結果、水質は改善されたものの川の表流水は減り、貧栄養化している。瀬戸内海の漁獲高は激減し、漁師は次々と廃業している。

先日、笠岡市の副市長から面白い話を聞いた。この方は元福山市の環境部長であり、河口堰の開放に否定的だった方だ。笠岡市も水不足であり、遠く高梁川から浅口市や里庄町を経由して笠岡まで水道管を敷設し「岡山県西南水道企業団」により日量6万トンを送っている。敷設から50年が経過し老朽化したので更新時に大口径の管に入替えJFEまで配水できれば河口堰は開放できますよ！高梁川は水量豊富だからと言われた。人は立場が変われば考えも変わるものだ。諦めずに開放に向けて頑張ろうと決意した。